

スナヅル *Cassytha filiformis* L. (クスノキ科) の海流散布と漂着発芽個体の新産地

中西弘樹

〒 851-2130 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 2 丁目 29-4 亜熱帯植物研究所

Abstract

Based on results of the buoyancy tests of fruits which were soaked in sea water, dispersal by ocean currents of *Cassytha filiformis* was discussed and new locality of the plant from sea-borne seed was reported in Japan.

はじめに

スナヅル属 *Cassytha* は、クスノキ科のつる性寄生植物で、世界に 22 種があり、その中で、スナヅル *Cassytha filiformis* L. は、最も広く分布し、世界の熱帯・亜熱帯に見られる (POWO 2025). 日本では琉球列島から屋久島・九州の佐多岬までと小笠原諸島の海岸に知られている (田村 1982, 米倉 2015). 高知県でも 2016 年に室戸市羽根町で発見されたが、台風で消失し、その後大月町柏島で発見された (高知県レッドデータブック (植物編) 改訂委員会 2022).

スナヅルは海外では内陸部にも生育し、草本植物よりも木本植物に嗜好的に寄生することが知られている (Zhang et al. 2022). 日本では海浜に生育するゲンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* やソコベニヒルガオ *I. littoralis*, ハマアズキ *Vigna marina* などの草本植物に多く、ハマゴウ *Vitex rotundifolia*, クサトベラ *Scaevola taccada* などの低木類などにも寄生するが、ほぼ海岸部に限られる。個体の旺盛な成長時にはつるが緑色をしているが、開花、結実し、やがて茎が橙色化してくるにつれて衰退し、枯死する (岩瀬ほか 2019).

熱帯・亜熱帯に広く分布することや海岸に多

く生育することから、本種は古くから海流散布植物であると考えられているが、その海水での浮遊能力については異なる記述がなされてきた。しかし、最近では本種の海流散布について詳細なあるいは正確な記述はなされていない。

スナヅルの果実の浮遊実験に基づく海流散布についての考察と、漂着発芽個体 (漂着種子由来の実生) の新産地について報告しておきたい。

方法

海水での浮遊能力を調べるために、鹿児島県徳之島でスナヅルの種子と果実を採集した。採集した約 1 カ月後に人工海水を用いて浮遊能力を調べた。果実は 30 個ずつ 3 つのグループに分けて、それぞれ人工海水を入れた約 500 ml の容器に浮かせ、10 日毎に浮遊している割合を調べた。海水が濁ってきた時には、そのつど新しい海水と交換した。

結果および考察

浮遊能力と海流散布 Ridley (1930) は、スナヅルの種子は海流で散布され、その種子は、ゲンバイヒルガオやサキシマハマボウ *Thespesia populnea* の種子と同じように子葉が完全に中を満たしておらず、空隙があることが浮力の基であるとしている。しかし、徳之島で採集した種子はすべてすぐに沈み、浮遊能力はなかった。

果実の海水での浮遊実験は、10 日毎に浮遊している割合の平均と標準偏差を調べ、結果を Fig. 1

Nakanishi, H. 2026. Dispersal by ocean currents and new locality of plant from sea-borne seed of *Cassytha filiformis* in Japan. *Nature of Kagoshima* 52: 219–221.

✉ HN: Subtropical Botanical Institute, 2–29–4 Manabino, Nagayo-cho, Nishisonogi-gun, Nagasaki Prefecture 851–2130, Japan (e-mail: anettai@ngs1.cncm.ne.jp).

Received: 13 March 2026; published online: 16 March 2026; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-055.pdf

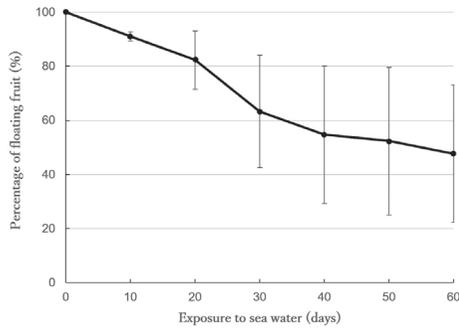


Fig. 1. Results of buoyancy test in fruits of *Cassytha filiformis* which were soaked into sea water. Error bars indicate standard deviation.

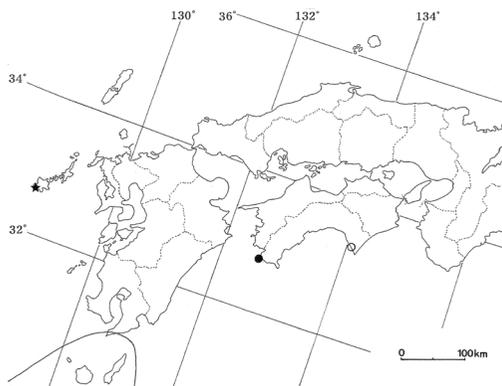


Fig. 2. Records of *Cassytha filiformis* beyond the distribution area. Existing (●), extinct (○), new locality (★).

にまとめた。30日後で $63.3 \pm 20.8\%$ 、60日後で $47.7 \pm 25.4\%$ が浮いており、スナヅルは海流で散布されることがわかった。Guppy (1917)は、太平洋諸島に生育している個体から採集した果実は、何カ月も生きのまま海水に浮くことができるが、ジャマイカの湿潤な低木林で採集した果実は、浮遊しなかったことを述べている。一方、Muir (1933)は、太平洋域で採集した果実は、8日目以降に浮いていたのはわずか18%であったとしている。しかし、最近のスナヅルの総説では海流散布について詳しい説明や正しい記述は見られず、Nelson (2008)は、種子は動物、水、強風、人為によって散布されることを紹介し、特に人為散布について例をあげて説明しているが、海流散布については種子が大陸間と島嶼間で散布されていることだけを記述している。Zhang et al. (2022)は、Muir (1933)の記述を誤って引用し、スナヅルの果実は太平洋



Fig. 3. *Cassytha filiformis* parasitizing *Ipomoea pes-caprae* in the Goto Islands.

において何カ月も浮いていたことがわかっているとしている。

新産地と生育状況 スナヅルを発見したのは2025年11月22日、長崎県五島市玉之浦町大宝で、五島列島の南端に位置する福江島の南部に位置する (Fig. 2)。ここにはゲンバイヒルガオ群落があり (山本 2023, 中西 2025c)、毎年開花、結実する個体群としては、北限自生地である。また、この海岸には毎年多くの漂着発芽植物が見られ (中西 2023)、フウセンアサガオ *Operculina turpethum* (中西 2024a)、モモタマナ *Terminalia catappa* (中西 2024b)、モダマ *Entada tonkinensis* (中西 2025a)、サキシマハマボウ (中西・茨木 2025) や、ハマアズキが開花したこともある (中西 2025b)。

発見したスナヅルは、ゲンバイヒルガオ群落の海側に生育している、漂着種子由来のゲンバイヒルガオの幼個体に寄生していた (Fig. 3)。スナヅルは茎の長さ約9 cm、葉を4枚つけたゲンバイヒルガオの上から3 cmの部分に寄生していた。そこから太さ約1 mmの3本の茎を長さ5 cm、3 cm、2 cm伸ばし、それぞれの茎は枝分かれし、先端は曲がっている。基部は緑色、上部は黄緑色をしている。この地はゲンバイヒルガオの複数個体が越冬するが、汀線に近い箇所に発芽した個体は、飛砂や寒さの影響で枯れてしまう。スナヅルが寄生していた個体はすでにいくつかの葉が落ち、残った4枚の葉も光沢がなく、変色していたため、越冬できる可能性は低いと判断され、スナヅルも越冬できず枯死するものと考えられる。

スナヅルは分布が広く、Guppy (1917) や Muir

(1933)の記述から判断すると、果実が海に流出するまでの期間や状態、あるいは地域によって浮遊能力に違いがある可能性があり、今回の実験でも浮遊能力にかなり変異があることがわかった。しかし、スナヅルの果実は海水での浮遊能力をもっていることは間違いなく、生育地に落下した果実が、強風や高波などによって海に流出した後、海流散布され分布拡大していくものと考えられる。

証拠標本

長崎県五島市玉之浦町大宝, 1 m alt. (H. Nakanishi, no.26482, 22. Nov. 2025, 亜熱帯植物研究所所蔵)

謝辞

スナヅルの果実を送っていただいた徳之島阿権濱しぜん館の西村奈美子さんにお礼を申し上げます。

引用文献

- Guppy, H.B. 1917. *Plants, Seeds, and Currents in the West Indies and Azores*. 531 pp., Williams and Norgate, London.
- 岩瀬剛二・石垣圭一・井村信弥・寺嶋芳江. 2019. 西表島における海浜性寄生植物スナヅルの成長と増殖. 帝京科学大学紀要 15: 23–31.
- 高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会編. 2022. 高知県レッドデータブック 植物編. 229 pp., 高知県林業振興・環境部自然共生課, 高知.

- Muir, J. 1933. The beach drift of South Africa. *Journal of the Botanical Society of South Africa* 18: 5–10.
- 中西弘樹. 2023. 長崎県五島大宝における熱帯・亜熱帯植物の漂着種子起源の実生. *漂着物学会誌* 20: 1–5.
- 中西弘樹. 2024a. 日本本土におけるフウセンアサガオ(ヒルガオ科)の漂着種子由来の個体の現状. *植物地理・分類研究* 72: 87–93.
- 中西弘樹. 2024b. 九州における漂着種子由来のモモタマナの生育状況. *植物地理・分類研究* 72: 95–100.
- 中西弘樹. 2025a. 日本本土に漂着種子由来のモダマの幼個体. *漂着物学会誌* 22: 17–18.
- 中西弘樹. 2025b. ハマアズキ *Vigna marina* とナガバハマササゲ *V. luteola* の漂着種子由来の個体を九州北西部で発見. *植物地理・分類研究* 73: 81–87.
- 中西弘樹. 2025c. 九州西部におけるゲンバイヒルガオの開花個体の分布と平戸島の新産地. *長崎県生物学会誌* (97): 22–25.
- 中西弘樹・茨木 靖. 2025. 九州, 四国に漂着種子由来のサキシマハマボウの実生. *漂着物学会誌* 22: 19–20.
- Nelson, S. C. 2008. *Cassytha filiformis*. *Plant Disease*. College of Tropical Agriculture and Human Resources, University of Hawaii, 2008. pp. 1–10.
- POWO. 2025. *Plants of the World Online*. Facilitated by the Royal Botanic Gardens, Kew. Published on the Internet; www.plantsoftheworldonline.org/ (2025年12月参照)
- Ridley, H.N. 1930. *The Dispersal of Plants throughout the World*. 744 pp., L. Reeve & Co. Ashford, Kent.
- 田村道夫. 1982. クスノキ科 LAURACEAE. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編 日本野生植物草本 II 離弁花類. p. 56. 平凡社, 東京.
- 米倉浩司. 2015. クスノキ科 LAURACEAE. 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 改訂新版 日本野生植物 1. pp. 78–88. 平凡社, 東京.
- Zhang, H., Florentine, S. and Tennakoon, K. U. 2022. The angiosperm stem hemiparasitic genus *Cassytha* (Lauraceae) and its host interactions: a review. *Frontiers in Plant Science* 13, Article 864110.